

令和2年度懸賞論文受賞者を決定（報告）

（公財）九州運輸振興センター

懸賞論文募集は、九州圏における交通・観光事業の発展及び地域社会の活性化に寄与することを目的に、平成25年度から開始し本年度で8年度目となります。本年度も大学の先生等の支援、ご協力を頂き、4大学から9件の応募がありました。

応募のありました論文は、令和3年1月22日に開催しました「懸賞論文審査委員会」において審査を行った結果、以下の通り優秀賞2編が決定されました。

（なお本年度は最優秀賞該当者無し）

優秀論文 受賞者 高尾 紗季
大学等名 西南学院大学 商学部
テ ー マ 福岡市へのロープウェイ導入の提言

優秀論文 授賞者 伊藤 優汰、田中 美樹、中村 祐斗、堀 ひなこ
大学等名 佐賀大学 経済学部
テ ー マ 九州新幹線西九州ルート開通が佐賀大学生の通学・居住選択に及ぼす影響に関するデータ分析

優秀賞に選定された「福岡市へのロープウェイ導入の提言」は、福岡市のウォーターフロント地区再整備に伴う交通渋滞への対策は重要な課題であり、論理的に主張することができており、考察も多角的に行っていると考えます。しかし、既にあった福岡市の「福岡スカイウェイ構想」委員会資料をベースとしていることから、新規性には欠ける部分もあり、論点を明確にして別の視点からの課題の掘下げなどができればよかったと思われます。

同賞「九州新幹線西九州ルート開通が佐賀大学生の通学・居住選択に及ぼす影響に関するデータ分析」は、独自に課題を設定し、独自の2種類のアンケート調査を実施し、統計的な分析を試みた点が論文として高く評価されます。一方で、本懸賞論文の主旨は、交通・運輸の視点からの九州への貢献が求められることから、単に限られた対象によるアンケート結果に留まることなく、具体化される並行在来線の取扱いや運賃等の議論を踏まえた調査などが期待されました。

このような意見が審査委員会において出されました。

なお、新型コロナウイルスの国内感染拡大防止の観点から授賞式は開催せず、受賞者には竹島会長より個別に表彰状と副賞が授与されました。

（参考）

○ 懸賞論文審査委員会委員名

星野 裕志 九州大学大学院 経済学研究院 教授
千 相哲 九州産業大学 地域共創学部 学部長・教授
辰巳 浩 福岡大学 工学部 社会デザイン工学科 教授

福田 晴仁 西南学院大学 商学部 教授
堀 信太郎 九州運輸局 観光部 部長
大黒伊勢夫 (公財)九州運輸振興センター 理事



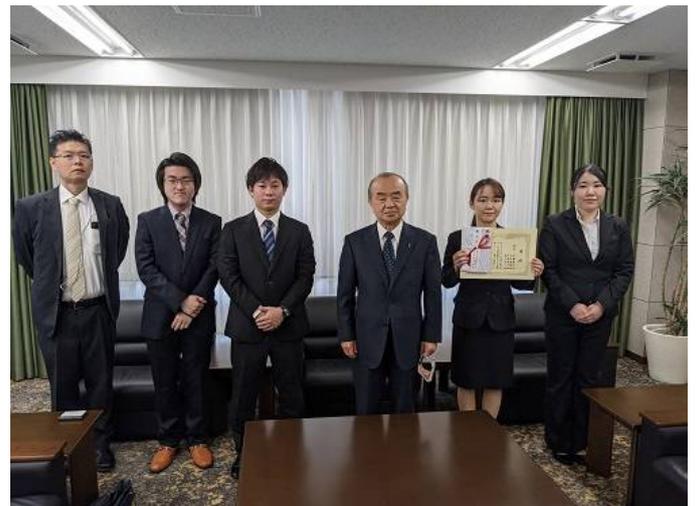
賞状・副賞授与：優秀賞 西南学院大学 高尾様



左から福田先生、高尾様、竹島会長



賞状・副賞授与：優秀賞 佐賀大学 堀様



左から
亀山先生、中村様、伊藤様、竹島会長、堀様、田中様

なお、受賞した2編の要旨については、以下に掲載しております。

論題「福岡市へのロープウェイ導入の提言」

氏名 高尾 紗季

キーワード：都市型ロープウェイ・輸送・交通渋滞緩和・魅力向上

論文要旨

福岡市のウォーターフロント地区再整備に伴い、福岡市の交通渋滞はますます悪化することが予想される。交通渋滞が悪化すれば、福岡市の交通の利便性がさらに損なわれることは明白であり、交通の利便性向上のために早期に改善するべきである。

本論文では、現在の福岡市の交通渋滞と福岡市が行っている渋滞緩和への取り組みの現状を把握し、それに対する問題点を指摘した。福岡市の現在の交通状況から、地上での交通対策を講じることは困難であると感じ、福岡市の交通渋滞緩和のため、ロープウェイの導入の提言を行った。

第1章は、ウォーターフロント再整備についての具体的な内容を記載し、それにより増加が見込まれる人々の往来に対する現状の交通課題を明確にした。海外で使用されている都市型ロープウェイの例等を挙げ、福岡市へのロープウェイの導入の提案を行った。

第2章は、日本におけるロープウェイの歴史を調べ、福岡市で検討されていたロープウェイ構想の内容についてと、福岡市がロープウェイの他に検討していた7つの公共交通機関を輸送性、経済性、安全性、魅力、構造面の5つの観点から比較したデータを基にロープウェイのもつ利点について考察した。それとは別にロープウェイが持っている6つの利点を挙げ、導入の意義を述べた。

第3章は、ロープウェイ導入の際に想定される課題を明確にし、その課題に対する対応策を提案した。また、ロープウェイを実際に導入したと仮定した場合に渋滞緩和へ効果があるか、需要と収益性はあるかについての考察を行った。

おわりにでは、本論文の結論をまとめ、ロープウェイのもつ複数の利点から、都市型ロープウェイは福岡市の交通渋滞緩和策として適切であるとした。また、福岡市の魅力向上の面からも導入意義があると考えた。しかし、実際に導入を行う際には市民から理解を得ることが重要であると思われるため、市民の理解を得るための方法についての提案と考察を行った。

九州新幹線西九州ルート開通が佐賀大学生の通学・居住選択に及ぼす影響 に関するデータ分析

伊藤 優汰
田中 美樹
中村 祐斗
堀 ひなこ

九州では現在、新幹線西九州ルートの整備計画武雄温泉－長崎間の開業が2022年度内に予定されているが、佐賀県は博多－長崎間の開通に対して反対の姿勢をとっている。

そのような状況のもと、本研究では、過去の新幹線開通と地域経済の関係を分析したいくつかの論文を読み、新幹線をはじめとする高速交通インフラの整備が各地域にどのような影響を与えるかを学習した。

一方で、これらの学術研究の分析結果から得られる情報では、消費者（特に交通弱者の一翼ともいえる通学者）の視点からのデータ分析はなされていないことがわかった。

新幹線の開通が消費者に与える影響としては、現在通っている普通・快速・特急などの並行在来線に対して、運行本数の減少、特急の廃止、運賃の上昇の3つの影響が出ると考えられる。これらの影響により、博多－佐賀間を在来線で移動できることを念頭に進路選択を想定している場合、進路選択の幅が狭まる可能性が考えられる。また、進路選択の変更を媒介として、佐賀大学の新生の減少、学生による地域への間接的な経済効果（校区でのアルバイトなど）の縮小をもたらすという課題が見えてくる。

本研究プロジェクトでは、この課題を明確にし、通学者の実態を把握するためにアンケート調査を実施し、それに基づくデータ分析が必要であると考えた。西九州ルート開通と学生の進路・通学・居住の意思決定に関するアンケート調査を行い、データ分析をもとに学生提案をまとめることにした。

データ分析結果より、AHPからは大学生・高校生ともに現在の居住地から近い進学先を選ぶ傾向にある。CVMからは特急・新幹線の利用や乗車時間の延長、電車費用の上昇は通学範囲・進路選択の縮小につながるということがわかった。このことから、西九州ルート開通により県外の学生や高校生が佐賀大学を進路先として考えていかなることが予想される。そのため新幹線西九州ルート開通後は、今よりも一層、佐賀大学を県内や県外にプロモーションして若者の獲得を目指していく必要があることが分かった。

キーワード：鉄道、公共交通、地域活性化

○令和2年度第1回懸賞論文審査委員会

※ 2020年4月30日 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、書面決議

○令和2年度第2回懸賞論文審査委員会 (2021年1月22日開催)

